

<総括>

出題数	現代文 (文語体の文章を含む) 2題 現・古・漢融合問題 1題	試験時間 90分
-----	------------------------------------	----------

(一) について。昨年度同様、現代の文章と古い文体の文章とが並列された形式の出題であり、古い方の文章は明治7年(1874年)の文章であった。Bは、昨年度は候文であり読みにくかったが、今年度は近代文語文として通常の文体であり、読み取りがやや平易になった。また、Aが限定された学問領域に関する内容であった昨年度と比べると、Aも読みやすかったと言えよう。

(二) について。昨年度同様、平易な評論が出題された。設問も解きやすかったであろう。

(一)・(二) 全体を通して。読む量が多く解答時間が足りなかっただろうが、解答に悩む設問も多くはなく、昨年度より易化したと言えよう。

<本文分析>

大問番号	(一)	(二)
出典 (作者)	A 渡辺浩『明治革命・性・文明』第9章 競争と「文明」(東京大学出版会、2021年) B 福沢諭吉「学問のすゝめ」第一三編 怨望の人間に害あるを論ず(1874年)	李禹煥『兩義の表現』所収「表現としての沈黙」(みすず書房、2021年)
頻出度合 ・的中等	Aは、入試では稀な筆者である。 Bは、筆者の福沢諭吉も、この出典も入試では時おり出題される。	入試では稀な筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約6350字(A約3950字、B約2400字)。 昨年より約1600字増。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2450字。昨年より約200字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	A 文明論 B 道徳論	問一	マーク	標準	傍線部に関する説明問題 (融合型)。「怨望」の起こる原因が、Bの第4段落に記述されており、その段落以降で繰り返し述べられている「働きを窮せしむること」に対応する選択肢を選ぶ。
		問二	マーク	標準	傍線部内容説明問題。傍線部の7行後の記述などを手がかりとして答える。
		問三	マーク	標準	傍線部内容説明問題 (不適切なものを選ぶ問題)。ホの「文明開化期の知的伝統」が本文には書かれていない。
		問四	マーク	標準	空欄補充問題。空欄X直前の「翻訳による」という表現からA冒頭の『西洋事情外編』の「第六章」の題名が「世人相励み相競ふ事」であることに着目するとともに、筆者が福沢の「競争」に関する考え方を論じていることを踏まえる。
		問五	マーク	標準	傍線部理由説明問題 (不適切なものを選ぶ問題)。ロの「階級や性別などの社会的格差によってもたらされる」が不適當。
		問六	記述	標準	抜き出し問題。「自由競争」は傍線部前半との対応から。また「自業自得」は傍線部の後半と対応している。
		問七	マーク	標準	内容合致問題。ハはやや紛らわしいが、Aの末尾から5行目・2行目と対応すると考える。ホはBの8～10行目の内容と対応している。
(二)	表現論	問八	マーク	標準	傍線部内容説明問題。傍線部の3行前との対応に着目する。
		問九	マーク	難	傍線部内容説明問題。傍線部と対応する適切な選択肢がないが、傍線部の3行前の内容と対応しているとも考えられるイを消去法で選ぶ。
		問十	マーク	標準	傍線部理由説明問題。傍線部直前と対応しているものを選ぶ。
		問十一	マーク	標準	空欄補充問題。空欄直前の「しかし」が機能するように、「言語表現に近づくと「つまり」なくなる」という文脈を作る。
		問十二	マーク	標準	空欄補充問題 (文整序型)。①の「人間以外の音や声」と④の「音」や「聴こえぬ言葉」とのつながりを考える。
		問十三	マーク	標準	内容合致問題 (合致しないものを選ぶ問題)。ロの「擬似的な文学表現を指向する」という部分が、空欄Iの後の部分と食い違う。
		問十四	記述	標準	漢字の書き取り問題。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様なジャンル、いろいろな文体の文章に慣れ、内容の理解に努めるとともに、設問の要求を見抜く力を身につけなければならない。(一)のように、文章を並列する形の問題では、文章同士に共通する話題やテーマを意識して読んでいこう。今後も文語文の出題の可能性があるので、古い文体の文章にも触れておきたい。語彙に関する知識も要求されることがあるので、概念語や慣用表現などにも習熟しなければならない。また記述問題も出題される可能性があるので、その練習も怠らないようにしたい。

# 国語 (融合問題)

## 早稲田大学 文化構想学部 4/5

### <総括>

出題数	現代文 (文語体の文章を含む) 2題 現・古・漢融合問題 1題	試験時間 90分
-----	------------------------------------	----------

昨年度同様、(三)は現古漢融合問題であったが、古文が独立した形で出題されていた昨年度とは異なり、現代文の中に古文・漢文が含まれている形の文章が出題された。

現代文は、受験生も一度は触れたことがあるであろう鴨長明に関する文章であり、昨年度のような専門性の高いものではなかったため、長い文章だが昨年度よりは読みやすかっただろう。

古文は、昨年度は独立して出題されたが、今年度は現代文に引用される形で出題された。内容説明、解釈、文法、文学史の問題が出題された。

漢文は、昨年度と同じく現代文に引用される形で出題された。昨年度は出題されなかった返り点の問題が出題された。

設問においても現代文・古文・漢文それぞれの正確な読解力が要求される。いずれも付け焼刃的な学習では正解は得られないので、本学部の受験者は、現代文・古文・漢文についての十分な対策が必要である。

### <本文分析>

大問番号	(三)	
出典 (作者)	荒木浩『京都古典文学めぐり—都人の四季と暮らし』第三章 時空の境界を超える 1 四方四季のユートピア—巨椋池 (『方丈記』) (岩波書店 2023) 引用古文は鴨長明『方丈記』、『作庭記』、『今昔物語集』 引用漢文は慶滋保胤「池亭記」、白居易「草堂記」(『白氏文集』卷二十六)、藤原公任『和漢朗詠集』など	
頻出度合 ・的中等	入試ではほとんど見られない筆者の文章である。 引用古文のうち、『方丈記』、『今昔物語集』は頻出出典であるが、この箇所の出題は稀。『作庭記』からの出題は稀。 引用漢文のうち、「池亭記」、「草堂記」、『和漢朗詠集』は稀。ただし、『白氏文集』からの出題は頻出。	
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	約5350字 (昨年より約1000字増) うち古文 約730字 (昨年より約340字減) うち漢文 281字 (昨年より9字減)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	現代文は易化。 古文は易化。 漢文はやや易化。

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(三)	古典文学論 (引用古文は 随筆・造園書・ 説話) (引用漢文は 随筆・漢詩)	問十五	マーク	標準	内容説明(「ちぎる」の意味に注意)。 [古文] 文の意味(「まめなり」の意味に注意)。 [古文] 空欄補充問題。空欄Iを含む段落の前の段落から空欄I直前までに書かれている長明の生活空間についての記述から考える。 [現代文] 空欄補充問題(抜き出し型)。空欄のある段落冒頭の「和歌をめぐる因縁」、空欄の後の「詠じた」、「和歌」、「満沙弥」という語から、空欄Iを含む段落の前の段落冒頭に引用された「沙弥満誓の和歌」に着目する。 傍線部2の3行後の「跡の白波にこの身を寄する」は和歌の部分ではないので、空欄直後の「と詠じた」に続かない。 [現代文・古文・漢文] 返り点の問題。直前の「之を愛すること」という読み方に注目して、「若(ごとし)の用法を捉える。重要単語「不能(能はず)にも注意する。 [漢文] 傍線部内容説明問題。「宇宙」については、本文最後の8行をもとに考える。 [現代文] 内容合致問題(適切でないものを選ぶ問題)。ハの「仏道の修行とは、距離を置いた生活をしていた」が、傍線部2の1行後や空欄Iの3行前と食い違う。 [現代文・古文・漢文] 文法(「めり」「けれ」の識別)。 [古文] 文学史(『方丈記』よりも前に成立したと考えられる作品を選ぶ)。 [古文] 内容合致問題(合致するものを二つ選ぶ問題)。ニは10ページ・1行目～6行目と合致する。またホは10ページの最後～11ページ・11行目までの内容に合致する。 [現代文・古文・漢文]
		問十六	マーク	易	
		問十七	マーク	標準	
		問十八	記述	標準	
		問十九	マーク	標準	
		問二十	マーク	標準	
		問二十一	マーク	やや難	
		問二十二 問二十三	マーク マーク	易 やや易	
問二十四	マーク	標準			

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>[現代文] 古典評論や文化論を中心に、様々なジャンルの文章に取り組もう。</p> <p>[古文] 基本的な単語・文法・常識・文学史等の知識を正確に習得するとともに、その知識をもとに古文の文章を厳密に読解する学力を養っておくこと。</p> <p>[漢文] 重要単語や基本句形の学習を怠らず、文脈を正確に読み取る力を培うことが大切である。白文、漢詩、文学史、思想史に対する十分な準備もしておくこと。</p>
--